

## 河川における大腸菌数について

### 1 現状

- 約4割の河川で環境基準不適合 (R4: 15/47, R5: 20/47, R6: 18/47)
- ふん便汚染の発生源となりうる施設（農業集落排水施設、畜産農場等）が流域にない河川においても超過する事例が見られる。



### 2 これまでの対応状況

- 令和5年度に河川における大腸菌数環境基準未達成対策実証事業を実施。  
⇒流域の農業集落排水施設及び畜産農場の排水について改善を指導。  
畜産農場の排水については、定期的に状況を確認し、基準を順守していることを確認。
- 年間を通じた評価で環境基準未達成となった地点のうち、隔月で測定している地点について、頻度を毎月に重点化し、状況の把握に努めてきた。

### 3 想定される超過要因等

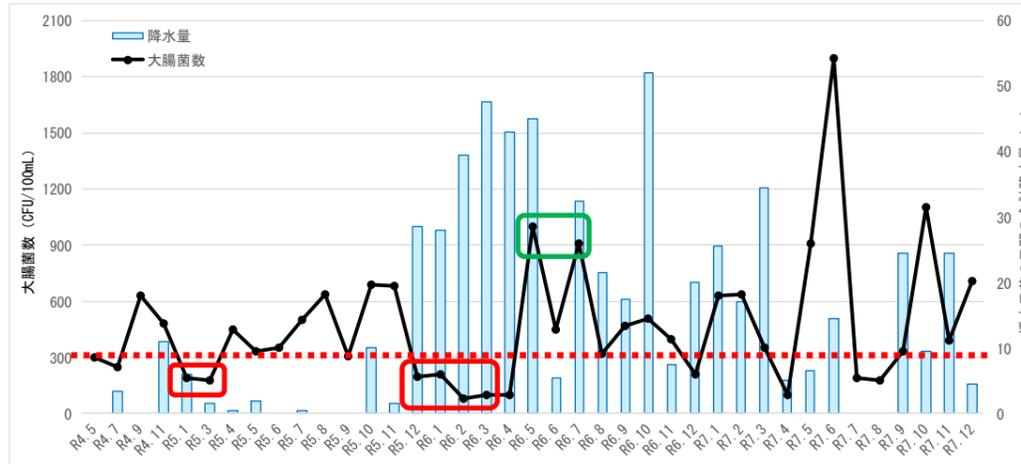
環境水中の大腸菌数に寄与する要因等について、学識者の見解も参考に検討した結果、以下が想定された。

- 山間部を經由する河川については野生動物の影響が考えられる。
- 野生動物が寄与している場合、冬季は冬眠の影響で低くなる傾向がある。
- 野生動物由来であれば、降雨により糞が流されて河川に流入することがあるため、降雨後は増加する傾向がある。
- 人為由来であれば降雨後は希釈されて減少する傾向がある。
- 冬季に増加している場合、採水地が河口付近であれば渡り鳥の影響も考えられる。
- 気温、水温については、流下時間がそこまで長くないのであれば影響を及ぼすファクターにはなりにくい。

### 4 県内河川の状況

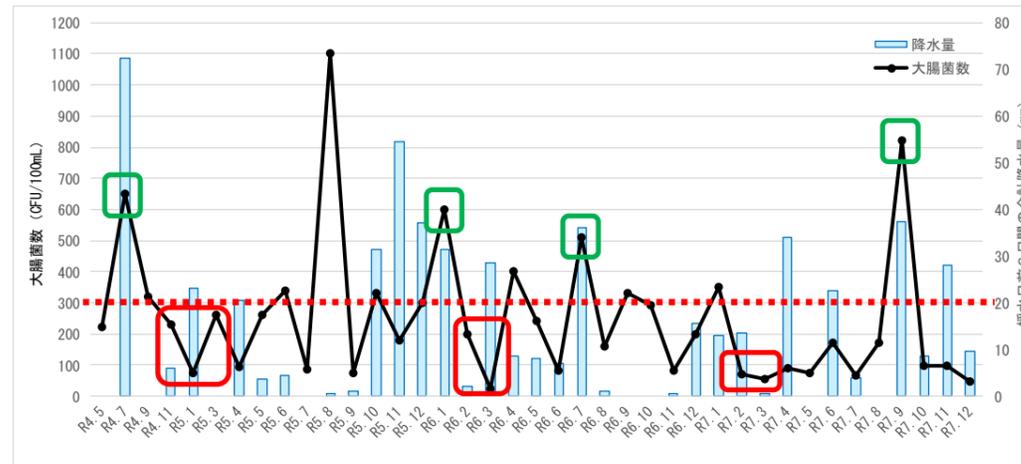
想定される要因を踏まえ、県で測定している河川の内、基準を超過している頻度が高い河川である阿尾川、角川、黒瀬川について、採水日前3日間の降雨の状況や河川の流域の状況を確認した結果、以下のとおりであった。

#### ①阿尾川



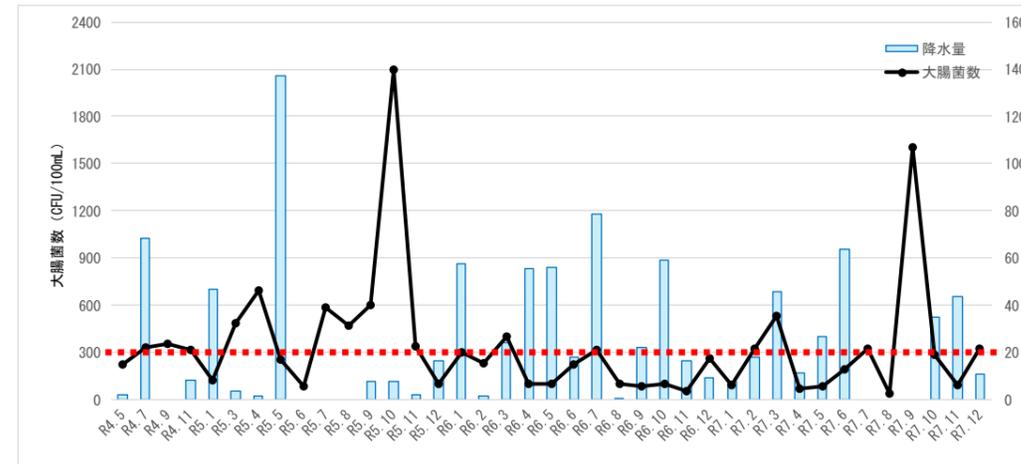
- ・12月～3月までの野生動物が冬眠していると考えられる期間の値は低い (R4及び5年度)。
- ・ただし、R6年度は冬場でも超過が見られた。
- ・4～11月までは降水量が多いと高くなる傾向が見られる。
- ・河川上流域は山間部のため、野生動物の影響を受けている可能性がある。

#### ②角川



- ・冬季は比較的低く、夏季は降水量が多いと高くなることもある。
- ・1月に突発的に高い値を示す事例がある。
- ・下流域は人家が多いが、上～中流域は山間部のため、原因としては人為、動物由来ともに可能性が考えられる。

#### ③黒瀬川



- ・降水量と大腸菌数に相関はあまり見られない。
- ・冬季に低くなる傾向は見られない。
- ・流域は人家が多く、野生動物よりも人為由来の大腸菌の影響を受けている可能性がある。

### 5 今後の対応

- 県管理河川については全地点で毎月測定に重点化する。
- 引き続き状況を注視するとともに、野生動物の影響について情報収集や知見の集積を行う。